就職課 積極的に利用

商学部マーケティング学科　松田（まつだ） 和哲（かずさ）さん
（自動車部品製造・ビューテック内定）

私が就職活動を通して学んだことを踏まえて、これから就職活動を始める後輩の皆さんへ三つのアドバイスをします。

まず友人や先輩のアドバイスはうのみにせず、その情報を調べてから自分で判断するのをオススメします。例えば「SPIの勉強はしなくても受かる」「就職合宿行っても意味ないよ」「売り手市場だから楽勝、大丈夫」など。

私はそのアドバイスをうのみにし、SPIの勉強をしませんでした。履歴書も自己流で作成、3月に約20社にエントリーしました。その結果、5月末には全滅。周りが就活を終える中、「ヤバイ」「就職浪人か」……焦りと無力感でいっぱいになりました。

その人にとっては良くても実際に自分が就活してみると全く違います。なぜならその人と同じ業界・企業を受けるわけではないからです。

そこで就職課に本気で頼ることにしました。状況を伝え、履歴書を一から書き直すことになりました。週1回ペースで通った結果、最終的に2社から内々定を得ることができました。就職課は間違いなく利用した方が良い、これが二つ目のアドバイスです。

最後は「思い切って休むこと」。就活では精神的に追い込まれることもあります。私の場合、結果が出ないことはもちろん、説明会と言いながらその日の夜に不採用通知、北海道まで面接に行って不採用、グループ面接で自分以外大学院生など、多くのことが重なって精神的に落ち込んでしまいました。

そんな時は自分の好きなことをしたり、友達と食事に行ったりしました。すると落ち着いて就職活動を再開でき、結果も出せるようになりました。

以上、私個人の体験ですが、後輩の皆さんが納得して内定をもらえるための手助けになればうれしいです。

余裕あるうちに始動

人間科学部社会学科　山本（やまもと） 朋佳（ともか）さん
（静岡県三島市役所内定）

私は民間と公務員を併願しました。公務員受験に専念する学生が多いですが、たとえ公務員試験に受からなくても納得できる就職先を見つけたいと思い併願を決めました。

併願の場合、公務員試験が近くなるにつれて民間と公務員対策の両立が厳しくなるので、余裕のある3年次の6月から就職活動を始めました。具体的には、自己分析、企業・自治体研究、インターンシップや就職支援プログラムへの参加です。インターンシップは7月という早いが、公務員試験の内容と時期に民間企業2社に参加。この経験はエントリーシートを書く際や面接で話す内容を考える際にとても役立ちました。

公務員試験の勉強は、3年次の10月から始まるエクステンションセンター主催の市役所試験（教養型）対策講座への受講を機に始めました。同時に就職課主催のSPI試験対策講座も受講。SPIの講座は民間就職のためと思い受講しましたが、公務員試験の内容と重なっている部分もあり、お互いの内容を補完し理解を深めることができました。

最終的に民間企業は6社を受験し5社から内定をもらいました。公務員試験は1庁に補欠合格した後、9月に第一志望の市役所から合格通知が届き、就職活動が終了しました。併願した分、長丁場になりつらい時期もありました。しかし、民間と公務員の仕事を比べることでそれぞれの良さも分かりましたし、自分が満足のいく進路決定ができたので、併願してよかったと感じました。

卒業後は、大学で学んだことや在学中に取得した保育士資格もいかして、子育て環境の整備に携わりたいです。そして、ゼミ指導の大矢根淳先生や大学職員の方々、友人、家族など支えてくれた人への感謝の気持ちを忘れずに、人々の生活を支えていくことが目標です。

就職活動体験記

就職活動を終え、内定を得た4年次生2人に、活動のポイントや3年次生へのアドバイスを寄せてもらった。

「トーキョー・シゴト・ワゴン」
若手社員と本音で懇談
1～3年次15人が参加

金羊社では営業やデザインなど部門ごとに若手社員の話を聞いた

貸し切りバスで都内の中小企業を訪問する「トーキョー・シゴト・ワゴン」の専大生限定ツアーが8月10日、開催された。1～3年次生15人が参加し、会社見学や若手社員との懇談を通じて、働くことの意義を確認した。

「シゴト・ワゴン」は東京都の事業。一般公募と大学連携型があり、本学での大学連携型の実施は初めて。就職課が企画した。

サテライトキャンパスを出発した一行はIT企業のテイルウィンドシステム（立川市）へ。業務の説明を受けた後、若手社員と懇談した。「文系でパソコンもほとんど触ったことがなかったが、入社後の研修や指導が充実しており、困ったことはない」との社員の言葉に、多くの学生がうなずいた。仕事のやりがいや、困ったときの対処法、休日の過ごし方など、和気あいあいとした雰囲気で話が広がった。

バスで2社目の印刷会社・金羊社（大田区）へ。CDやDVDのパッケージ印刷を手がける同社の工場を見学し、若手社員の説明を聞いた。専大文学部卒の女性社員からは「仕事を選ぶときは、自分のやりたいことに素直に向き合って」との励ましの言葉があった。同社の浅野晋作社長が飛び入りで登場。「これからいろいろな会社を訪れ、自分に合う会社の空気を見つけてください」と学生に呼びかけた。

帰りのバスの中では振り返りが行われた。木暮大喜さん（経営3）は「中小企業についてイメージが湧かなかったが、参加して社員と交流したことで雰囲気が伝わった。今後の就職活動の参考にしたい」と話した。

キャリアデザインPBLプログラム
12・1月に報告会

キャリアデザインセンターが実施する「キャリアデザインPBLプログラム」の1年間の取り組みを報告する会が12、1月に開催される。

PBL（Project Based Learning＝課題解決型学習）は学生が主体的に社会的課題に挑戦するプログラム。地域や企業での活動の成果や、学生が自ら考え出した起業アイデアをそれぞれ報告する。

開催日は次の通り（場所は予定）。観覧希望の方は、各開催日の5日前までにメール（career@acc.senshu-u.ac.jp）でお申し込みください。

【専大ベンチャービジネスコンテスト・プレゼン大会】
▽12月1日（土）12時30分～
▽生田キャンパス202教室

【課題解決型インターンシップ・成果発表会】
▽12月8日（土）12時50分～
▽生田キャンパス211教室

【専修リーダーシップ開発プログラム・最終報告会】
▽1月10日（木）16時45分～
▽生田キャンパス201教室

UIターン知事メッセージ
鹿児島県知事　三反園 訓

明治維新150周年の記念すべき節目の年にあたる今年、鹿児島県には、大河ドラマ「西郷（せご）どん」の影響もあって、国内外から多くの方々が訪れ、豊かな自然に育まれた「食」や、日本の変化に多大な影響を与えたを魅了しています。

明治維新の原動力となった鹿児島ですが、専修大学の4人の創立者のうち、田尻稲次郎氏は、幕末（嘉永3年）生まれの薩摩藩士であり、当県と専修大学との浅からぬ縁を感じずにはいられません。

「住んでよかった」と実感できる鹿児島を目指して

「歴史」、そこから生まれ現代に引き継がれている「伝統的工芸品」の数々が、多くの人々の心

さて、当県では、今年3月に、鹿児島の目指す姿や施策展開の基本方向などを明らかにした「かごしま未来創造ビジョン」を策定し、このビジョンに沿って、鹿児島を元気にするための施策を積極的に進めています。

当県は昨年8月に、専修大学と就職支援協定を締結し、これまで協定に基づいて、学内で開催するU・Iターン就職相談会や、専修大学が当県で開催する保護者への懇談会などに参加させていただき、当県へのU・Iターン就職情報を学生や保護者の方々に提供させていただいているところです。また、毎年8月の帰省時期に合わせて、「U・Iターンフェア」の開催や、就職情報提供サイトを運営し、Webによる県内就職情報の発信も実施しています。このほか、東京・大阪・鹿児島に「ふるさと人材相談室」を常設し、登録求人情報の提供やマッチング等、無料職業紹介業務を実施しています。

鹿児島を元気にするためには、若者の力がぜひとも必要となります。鹿児島の先人たちが、幕末という時代の大きな変革期において、未知の時代を切り拓（ひら）き、近代国家の礎を築き上げたように、専修大学の学生の皆さんも、これから鹿児島をどんどん発展させ、「住んでよかった」そう実感できる鹿児島を一緒につくっていただけることを期待しています。

【県ホームページ】https://www.pref.kagoshima.jp/sangyo-rodo/rodo/annai/index.html
【就職情報提供サイト かごＪｏｂ】https://kagojob.com/

MUFG
Quality for You
確かなクオリティを、明日へ。世界へ。
三菱UFJ銀行